

2026年度前期A(2月1日)入学試験問題 —英語・数学・国語—

※注意事項

名古屋産業大学

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 携帯電話は必ず電源を切ってカバンの中に、保管すること。
3. 試験の内容に関する質問は受け付けない。
4. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁または解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて、試験監督に知らせること。(問題は5ページ～37ページ)
5. 解答用紙は、受験科目ごとに決まっています。受験科目のマークされている部分を確認し、自分の受験科目と間違いの無いようにすること。解答用紙には、受験年度㉠、氏名㉡、受験番号㉢を下の(例)のように記入しなさい。あわせて、受験番号各桁に該当する□を黒く塗りつぶしなさい。(マークする)

(例) 数学を受験する場合の記入例

名古屋産業大学 2026年度 解答用紙

受験科目	国 語	英 語	数 学
	—	—	■

受 験 日	①	②	③	④	⑤	⑥
	—	—	—	—	—	—

⑤ 受験者氏名 (尾 張 花 子)

受験番号記入欄	1	6	1	1	0	1	A
受験番号マーク欄	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	A B C D E F G H I J K L M N O P Q

6. 解答は各設問で指定された解答欄に記入すること。
7. 解答は解答用紙の選択肢番号に当たる ☐ を黒く塗りつぶすこと。(マークする ☐ の塗りつぶし方(マークの方法)は、下記の例を参照すること。

良 い 例	
悪 い 例	  

8. マークを消す場合には、消し残りがないよう注意すること。

英 語

問題 5 ページ～ 12 ページ

設 問 数 21

1. 文章中のカッコ内に入るものとしてもっとも適切なものを（ア）～（エ）から一つ選べ。
解答番号は(1)～(5)。

(1) I enjoy () to music in my free time.

（ア） listen （イ） listened （ウ） listening （エ） to listen

(2) We went to the park () soccer.

（ア） played （イ） play （ウ） playing （エ） to play

(3) He is good at () soccer.

（ア） play （イ） playing （ウ） played （エ） to play

(4) Feeling (), he went straight to bed.

（ア） tired （イ） tire （ウ） tires （エ） to tire

(5) She is too tired () dinner.

（ア） cooking （イ） to cook （ウ） cook （エ） cooked

2. 日本語の意味に合うようにカッコ内に入るもっとも適切な語（語句）を（ア）～（エ）から一つ選べ。解答番号は(6)～(10)。

(6) 彼女は幸せそうに見える。（彼女は幸せそうだ。）

She seems () happy.

(ア) to be (イ) be (ウ) being (エ) is

(7) 私は息子が有名俳優である男性を知っている。

I know a man () son is a famous actor.

(ア) who (イ) whom (ウ) whose (エ) which

(8) 私が訪れたい国はイタリアです。

The country () I want to visit is Italy.

(ア) where (イ) who (ウ) what (エ) which

(9) もしも私があなただったら、そんなことは言わない。

If I () you, I would not say such a thing.

(ア) am (イ) were (ウ) was (エ) will be

(10) 私は昨日、美容院で髪を切ってもらった。

I had my hair () at the salon yesterday.

(ア) cut (イ) cutting (ウ) to cut (エ) cuts

3. 日本語の意味に合うように文章中のカッコ内の語を正しく並べ替えているものを（ア）～（エ）から一つ選べ。解答番号は(11)～(15)。

(11) この問題はあの問題ほど簡単ではない。

[is / as / this / as / not / easy / question / that]

(ア) This question is not as easy that as.

(イ) This is not question as that as easy.

(ウ) This question is not as easy as that.

(エ) That question as not is easy this as.

(12) 愛する人を失うことほど辛いことはない。

[is / nothing / painful / more / losing / than / someone / you / love]

(ア) Painful is nothing more losing someone than you love.

(イ) More painful nothing than losing someone you love is.

(ウ) Losing someone you love nothing is more than painful.

(エ) Nothing is more painful than losing someone you love.

(13) 彼が遅れた理由は明らかだ。

[the / is / reason / why / late / he / was / clear]

(ア) The reason why he was late is clear.

(イ) Why was reason the late he is clear.

(ウ) He reason the is clear was why late.

(エ) The reason is clear why late was he.

(14) もっと練習していれば、試合でもっとうまくできただろう。

[if / played / we / had / practiced / we / better / would / game / the / have / more]

- (ア) Had we the game played better, if we would more have practiced.
- (イ) If we had practiced more, we would have played the game better.
- (ウ) We would have better practiced if had played we more the game.
- (エ) If better the game we would played we more have had practiced.

(15) 彼女はそのニュースにショックを受けた。

[the news / shocked / was / by / she]

- (ア) She shocked by was the news.
- (イ) She the news was shocked by.
- (ウ) By she was shocked the news.
- (エ) She was shocked by the news.

4. John Stuart Mill (1806-1873 年) は、その著 “On Liberty” (1859 年) の中で、次のように述べている。

“It is not by wearing down into uniformity all that is individual in themselves, but by cultivating it and calling it forth, within the limits imposed by the rights and interests of others, that human beings become a noble and beautiful object of contemplation…” (一部改変)

(意訳：人間は自分の内なる個性を、すべて一様に削り^{なら}均すことによってではなく、むしろ他者の権利と利益を侵さぬ範囲内で培い呼び覚ますことによってこそ、高貴で美しい存在(観想の対象)となるのだ…)

【注】 wear down：すり減らす、摩滅させる / uniformity：一様、画一
contemplation：観想、深い思索

以下は、上掲の文章に続く内容を、趣旨を損なわない範囲で読解・設問用に抜粋・再構成したものである。文章を読み、(16)～(21)の問いに答えよ。

Formerly, different ranks, different neighbourhoods, different trades and professions, lived in what might be called different worlds; at present, to a great degree in the same. Comparatively speaking, they now read the same things, listen to the same things, see the same things, go to the same places, have their hopes and fears directed to the same objects, have the same rights and liberties, and the same means of asserting them.

And the assimilation is still proceeding. Every extension of education promotes it, because education brings people under common influences, and gives them access to the general stock of facts and sentiments. (一部改変)

① What has made the European family of nations an improving, instead of a stationary portion of mankind? ② Not any superior excellence in them, which, when it exists, exists as the effect, not as the cause; but their remarkable diversity of character and culture. ③ Individuals, classes, nations, have been extremely unlike one

another: they have struck out a great variety of paths, each leading to something valuable. (一部改変)

Europe is, in my judgment, wholly indebted to this plurality of paths for its progressive and many-sided development.

④ The worth of a state, in the long run, is the worth of the individuals composing it. (一部改変)

【注】

formerly：昔は

ranks：身分、階級

neighbourhood = neighborhood：近隣地域

trades and professions：この文脈では「職業」

what might be called ～：いわば～と呼ばれるもの、言うなれば (so-called ～)

to a great degree：大部分において

comparatively speaking：比較して言えば

fears：不安

means of asserting them：それらを主張する手段

assimilation：同化・均質化

general stock of facts and sentiments：人々に共有される知識や感情の蓄積

European family of nations：ヨーロッパ諸国の共同体

improving：進歩的な

stationary：停滞した

portion of mankind：人類の一部

superior excellence：卓越した優秀さ

effect：結果

cause：原因

struck out：切り開いた

is wholly indebted to ～：～に全面的に負っている、～のおかげである

plurality of paths：多様な道

progressive：進歩的な

(16) 第1段落において、Millが「昔は異なる階級や職業が異なる世界に住んでいた」と述べているのは、何を強調するためか。最もあてはまるものを選びなさい。解答番号は(16)。

- (ア) 過去の経済的格差の深刻さ
- (イ) かつては多様性が保たれていたこと
- (ウ) 階級社会の不平等の正当性
- (エ) 都市化による生活の混乱

(17) 第1段落において、Millが「人々が同じものを読み、同じものを見聞きするようになった」と述べる背景にある社会的要因について、最もあてはまるものを選びなさい。解答番号は(17)。

- (ア) 学校教育の廃止
- (イ) 宗教的対立の激化
- (ウ) 教育の拡充による情報の共有化
- (エ) 戦争による移住の増加

(18) 下線部①と②の文法的な関係について、最も適切なものを選びなさい。解答番号は(18)。

- (ア) ①は疑問文で、②はそれと無関係の独立文である。
- (イ) ②は主語と動詞を持たないので文法的に誤った文章である。
- (ウ) 「but their remarkable diversity…」は superior excellence の内容を補足している。
- (エ) ①の疑問文に対する答えが②であり、「Not A, but B」の対比構文として省略がある。

(19) 下線部③について、Millが示していることとして最も近いものを選びなさい。解答番号は(19)。

- (ア) 異なる道は多様で価値ある結果につながる。
- (イ) 成功のためには人々は一つの道を共有すべきだ。
- (ウ) 個性は国家の統一を脅かす。
- (エ) 訓練を受けた専門家だけが価値ある道を見いだせる。

(20) 下線部④を 50 字以内で日本語に訳しなさい。解答番号は (20)。

(21) 次の問いに対して、合計 2 文以上、1 文あたり 3 語以上の英語で答えなさい。解答番号は (21)。

What do you think about individuality and diversity? Explain your opinion.

(individuality = 個性 diversity = 多様性)

数 学

問題 17 ページ～ 20 ページ

設 問 数 15

1. 次の問 (1) ~ (10) の解答を、解答群 (ア) ~ (エ) から選べ。

(1) 3桁の偶数がある。この数の各桁の数字を逆に並べると693大きい数になった。元の偶数の百の位の数字はいくつか求めよ。解答番号は(1)。

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4

(2) $A = x^3 + x - 3$ $B = x^2 + 2x - 1$ について $A \div B$ を計算したとき、余りを求めよ。解答番号は(2)。

(ア) $2x + 1$ (イ) $2x - 1$ (ウ) $6x + 5$ (エ) $6x - 5$

(3) $x \leq 1$ は $x < 1$ であるための何条件であるか答えよ。解答番号は(3)。

(ア) 必要条件 (イ) 十分条件 (ウ) 必要十分条件
(エ) 必要条件でも十分条件でもない

(4) $\frac{4x+5}{2x+1}$ が整数となるような整数 x は何通りあるか求めよ。解答番号は(4)。

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4

- (5) 150 人を対象に、ある商品に関するアンケート調査を行った。下表は、調査項目と集計結果である。

調査項目	回 答	
価格は満足ですか？	満足している 80 人	満足していない 70 人
品質は満足ですか？	満足している 110 人	満足していない 40 人
価格も品質も両方満足している人が 65 人		

価格も品質も両方満足していない人は何人いるか求めよ。解答番号は(5)。

- (ア) 15 (イ) 25 (ウ) 35 (エ) 45

- (6) 「タバコを吸わない人は、健康である」という命題が正しいとき、次のうち確実にいえるのはどれか答えよ。解答番号は(6)。

- (ア) 健康な人は、タバコを吸わない
 (イ) 健康でない人は、タバコを吸う
 (ウ) タバコを吸う人は、健康でない
 (エ) 健康でない人は、タバコを吸うとは限らない

- (7) A さんが行くと 30 日で終わり、B さんが行くと 20 日で終わる仕事がある。この仕事を、はじめの 6 日間は A さんが、残りは全て B さんが行くと、仕事を始めてから終わるまでに何日かかるか求めよ。解答番号は(7)。

- (ア) 16 (イ) 17 (ウ) 22 (エ) 23

- (8) 男子 3 人、女子 2 人が横一列に並ぶ。女子どうしが隣り合わない並び方は全部で何通りあるか求めよ。解答番号は(8)。

- (ア) 9 (イ) 18 (ウ) 36 (エ) 72

- (9) あるネットワーク回線の月額使用料は、基本料金として 3000 円かかる。また、100 時間を超えると 1 時間当たり 20 円の超過料金がかかる。ある月の 1 時間当たりの平均料金が 22 円の時、その月のネットワーク回線の使用時間は何時間であったか求めよ。解答番号は (9)。

(ア) 300 (イ) 400 (ウ) 500 (エ) 600

- (10) A 地点から B 地点に移動するとき時速は 40km、B 地点から A 地点に移動するとき時速は 60km であった、往復の平均時速は何 km であったか求めよ。解答番号は (10)。

(ア) 46 (イ) 48 (ウ) 50 (エ) 52

2. $\triangle ABC$ において $AB = 5$ 、 $BC = 8$ 、 $\angle ABC = 60^\circ$ である。次の問に答えよ、解答は裏面の回答欄に記入すること。

- (1) 辺 AC の長さを求めよ。解答番号は (11)。

- (2) $\triangle ABC$ の面積を求めよ。解答番号は (12)。

- (3) $\triangle ABC$ に外接する円の半径を求めよ。解答番号は (13)。

3. 次の問に答えよ。解答は裏面の回答欄に記入すること。

(1) 実数 x, y に対して、 $x^2 + 2y^2 = 1$ が成立するとき、 x の範囲を求めよ。

解答番号は (14)。

(2) 実数 x, y で $x^2 + 2y^2 = 1$ のとき、 $P = 2x + 3y^2$ の最大値・最小値を求めよ。

解答番号は (15)。

国 語

設 問 数 13

一 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

相手を尊重すること

人間関係のはじまりは、母と子の関係である。しかし、これは「関係」と呼べるかどうか疑問に思われるほど、一方的な関係である。つまり、新生児はあらゆる点において母に依存しており、それはむしろ一体としての感じをもつにしても、母親を対象として意識することはないのである。ここに、母親は子どもを自分の一部として、抱きしめて育てていくことになる。このような母子の一体感が、わが国の家族関係のみでなく、人間関係の根本に存在していると思われる。

母子の一体感を破るものは父親である。子どもは父親の存在を通じて、「他者」の存在を知ることになる。一体感のタコウな状態を出て、子どもは他者と接し、他者と接してゆくためには、そこに存在している規範を守ってゆかねばならないことを、父親を通じて知るのである。従って、子にとっては父親は、社会の規範のタイゲン者であり、それを守らぬときは罰を与える怖い存在である。しかし、子が規範を守るかぎり、父親はそれを賞し、子が社会へ出てゆくための知識や技術を授け、教えてくれる存在でもある。

ここに簡単に母親、父親の役割として述べたことは、人間の生き方を支える原理として A 化することができる。つまり、母性原理は、「ホウガンする」^③ことを主な機能とし、すべてを包み込んでしまい、すべてのものが絶対的な平等性を持つ。これに対して、父性原理は母子の一体性を破ったように、「切断する」機能にその特性をもっている。それはすべてのものを切断し分割する。主体と客体、善と悪などに分類し、母性がすべての子どもを平等に扱うのに対して、子どもをその能力や個性に応じて類別する。このようないわば相対立する二つの原理は、もちろん片方のみでは不完全であり、相補ってこそ有効なものではあるが、実際にはどちらか一方が B で、片方が抑圧されたり、無視されたりする状態になっていることが多い。

日本という国では、一般の傾向と異なることをする、自立的に動く、というのは危険である。常に全体の中に自分を際立たせないように位置づけでおかねばならない。と言っても、日本人は個性がないとか、自分のことを考えないというのではない。一体感的関係を優先させながら、そのなかで自分の欲することをしたり、個性をあらわすことを考える。

西洋の場合は、個の確立が優先するが、その後で個人と個人の関係を確立しようとする。日本と順序が逆なのである。

大切なことは、合理的論理的に思考し、その自分の考えを適切に相手に伝える、ということである。個人がはっきりとした自分の考

えをもち、それがそのまま的確に他人に伝えられる、というと当然のことのようであるが、日本の学者と言われている人でも、これが本当にできる人は、あんがい、そんなに多くないのではないかとさえ思われるのである。

個人対個人の関係から見てくるもの

同性・異性を問わず、きょうだい喧嘩は、どの家庭でも悩みの種であろう。きょうだいの数が少なく塾へ行ったり、稽古にいったり、きょうだい喧嘩の暇もない、などというのは論外である。これは「他人のはじまり」としてのきょうだいとの関係によって、将来必要な人間関係の学習をする場を奪うようなものである。きょうだい喧嘩は必要な学習である。

大学生でいろいろと難しいことのある人のカウンセリングをしていた。何回か続けてお会いした後に、その学生さんが二、三日実家に帰ることがあった。すると、その父親から電話があつて「先生にえらくお世話になっているようですが、先生はうちの息子にどんな指導をしてくださいましたか」と言われる。何のことかと思っていると、息子の態度が急に変わった。これまでは帰ってくるときは、電話で何時に駅に着く、とだけ知らせてくる。父親が車で迎えに行き、息子の荷物を積んでいると、黙って座席に座り、出発する。というパターンだったのに、それが急変したというのである。

父親が駅に迎えに行くと、息子が「お父さん、ありがとう」と言う。荷物を持とうとすると「こんなの自分でするよ」と言い、座席に座って「お父さん、ほんとうにご苦労さま」と言ったので、父親はギョウテンして、すぐに私のところに電話してこられたのである。「先生はどのようにして、うちの息子に仕上げをされたのか」、そこが知りたいというわけである。

私は別に何の指導もしていない。ただ、その学生さんの言うことに

ア

だけである。「うちのおやじほど頑固な奴

はいません」にはじまって、息子はおやじの欠点をつぎつぎに語って攻撃した。最後は「あんなのいない方がいい」とまで断言した。「父親なんぞいない方がいい」と私は彼の言葉を繰り返した。それを聞くと彼はしばらく沈黙し、ややあって「僕の授業料や生活費は全部おやじが出しているのですけど」と低い声で言った。そして、しばらく沈黙して考えこんだ。

このような会話を続けているうちに、息子には父親の姿が少しずつ見えてきたのではなからうか。父親と自分はほとんど同体に等しく、自分のことはすべて父親がしてくれるのは当たり前と思っていたが、父親の欠点を並べ立てているうちに、自分と父親の間に適当

(あ)

な

C

ができてきて、そこから父親を見ると、一人の個人としての父親の姿が少し見えてきたのだ。

個人と個人との関係としてみると、父親が車で迎えに来てくれるのに、「ありがとう」と言うのも当然である。

一方通行にならないように

理解の在り方のカギを握るのが、相手に対して心が「開いているか」「閉じているか」ということなのです。私の知人が、親類の子供の誕生日に絵本を買って訪ね、その子とその子の友達の二人を前に読んでやったそうです。親類の子が身を乗り出して聞き入るのに対し、友達はシラケっ放しで「その話知ってるわ」と、ちゃちゃを入れる。「なんとも、いやな子だなあ」というのが最初の印象。ところが、本を読み終わった時、友達の方が「もう一度読んで」と言ったという。ろくに聞いてもいなかったのに不思議に思っている。「今度は私に読んでね」と言ったというのです。

この場合「いやな子で、家庭に問題があるのでは」というのは、それだけで分かった気になる「閉じた理解」です。ところが自分には イ ことを鋭く感じ取っていたわけで、「感じの悪い子」をつくっていたのは読み手側の責任。「ああそうだったのか、感受性の鋭い子だなあ」というのが「開かれた心の理解」で、より D 性のある理解です。「開かれた」理解をするためには、相手に対して自らの心をいつでも「開いた状態」でいることが必要です。開き過ぎでもなく、突き放しもしない心の状態で、日々のシンシな訓練が必要です。

『「人生学」ことはじめ』河合隼雄 講談社（一九九六） 五二頁～五八頁

問一 傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を使うものを次の中から選べ。解答番号は(1)～(5)。

① タコウ

(a) コウカンドが増した
(c) コウカイ後に立たず

(b) コウシ混同を避ける
(d) コウフクを願う

② タイゲン

(a) ゲンソ記号を覚える
(c) ゲンジツ逃避する

(b) 特定の話題にゲンキウした
(d) ゲンカクな父親であった

③ ホウガン

(a) アルコールのガンユウ量が多い
(c) ガンボウが叶った

(b) ガンコな性格であった
(d) コウガン無恥

④ ギョウテン

(a) テンシヨクを繰り返す
(c) テンジ会に行く

(b) 彼はテンサイと呼ばれた
(d) テンコして確認した

⑤ シンシ

(a) サイシンの情報を入手する
(c) シンラツな意見が出た

(b) シンケンな眼差し
(d) 現在シンコウ形

問二 空欄

A

～

D

に最もあてはまる語を、各選択肢のなかから一つ選べ。解答番号は(6)～(9)。

A

(a) 可視

(b) 相対

(c) 言語

(d) 抽象

B

(a) 明確

(b) 優勢

(c) 動的

(d) 有利

C

(a) 違和感

(b) 親近感

(c) 距離

(d) 信頼性

D

(a) 発展

(b) 日常

(c) 具体

(d) 現実

問三

著者が言うところの日本と西洋における自分のあり方や人間関係の持ち方の組み合わせとして、最もあてはまるものを、次の中から選べ。解答番号は(10)。

(a)

全体主義と能力主義

(b)

折衷主義と成果主義

(c)

集団主義と個人主義

(d)

事なかれ主義と実力主義

問四

波線部（あ）「個人と個人との関係としてみると、父親が車で迎えに来てくれるのに、「ありがとう」と言うのも当然である。」とあるが、ここで筆者が言う「個人と個人との関係」として最もあてはまるものを、次の中から一つ選べ。解答番号は(11)。

- (a) 常に合理的論理的に思考し、その自分の考えを適切に相手に伝えられるような関係。
- (b) 常に全体のなかに自分を際立たせないように位置づけでおくことが大切とされる関係。
- (c) 人間関係の根本に存在しているような母子の一体感。
- (d) 個人がはっきりとした自分の考えをもち、個の確立をした後、他者との関係を確立するような関係。

問五

空欄

ア

に入ると思われる文章を、次の中から選べ。解答番号は(12)。

- (a) コメントをしていた
- (b) 耳を傾けて聞いた
- (c) 疑問を投げかける表情をしていた
- (d) 反論していた

問六

空欄

イ

に入ると思われる文章を十五字以内で答えよ。解答番号は(13)。

問七

登場人物である大学生がカウンセリングを受けることにより生じた心境の変化について、「父性原理」と「母性原理」の言葉を用いながら、三〇〇字以内で説明せよ。解答番号は(14)。

二 一次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

老子や孔子の思想は自然主義的であり、宿命論的であった。しかしそこには、一種の ア した合理的なものの考え方が見出されたのである。一つにはこの点が私にアピールしたのであろう。というのは、私は、小さい時から、中途半端な物の考え方には満足できなかった。

前に言ったように、京極小学校にいたころ、毎朝、朝礼があった。その後で建部校長が訓話をされた。どんな話だったか、ほとんど全部、忘れてしまっている。が、不思議なことに、その中の一つだけを、今でもはっきりと覚えている。校長先生はある朝、「ア」という題で話された。いろいろな動物が川を渡った。ほかの動物はみな泳いで渡った。象だけは川の底をふみしめて渡った。これが ア だという話である。

小学生の私の心の中に、ア という言葉が、いつまでも強い印象を残した。ただ校長先生の話を聞きながら、もし象の背も立たないような川があったらどういうことになるだろうかと、子供心にふと疑いを抱いた。

中学生の私は、一方では老子や荘子の逆説をツウカイに感じながらも、何かそれではすまされないものがあることを否定できなかった。私の中には青春の血が流れはじめていたのかも知れない。

確か一中の四年生になった時だと思う。生物の時間に進化論の初歩的な解説を習った。教頭の武田丑乃助先生からである。「ウシヤン」というあだ名を、生徒がつけていた。相当の年輩で、たいへん物知りの先生である。話し方も上手であった。

はじめにラマルクの用不用説を紹介された。生物がそれぞれのキカン^②をしじゅう使っていると、それがだんだん A する。それによって生物は進化して行くというのである。これは私にはたいへん納得しやすい考えであった。ところが先生は、この説はだめだと言われる。生物が生れてから獲得した能力は、遺伝しないから、進化の役には立たないと言われる。

そこで次にダーウィンの進化論の解説がはじまる。生物の同じ仲間同士の間で B 競争が行われる。こういう仕組みで生物が進化していくというのである。

この考えは私にはどうもよくわからなかった。家へ帰ってから気になるので、裏庭を歩きまわりながら、先生の話を考え直してみた。

(中略)

進化論の話を聞いて帰ってきた私には、キャッチ・ボールや砲丸投げは、全然ネットウになかった。③何度も何度も、庭の中を歩きまわりながら、生物の進化の不思議を思いめぐらしていた。①自然淘汰が起るためには、生れた時から適者と不適者の間のサイが存在していなければならない。④成長してからの違いを問題にするなら、ラマルク説と同じことになる。そんなら、そういう生れつきの差異はどうしてできたのか。この点についての先生の説明は、はっきりしなかった。しかし、先生がどう言われたにせよ、中学生の乏しい知識で、いくら考えこんで見ても、進化論が

ア

的にわかるはずはなかったのである。

ずっと後になってスィリョウ⑤として見ると、当時の私はほとんど無意識的に、自然界で起る出来事には一つ一つあるという考え方を、唯一絶対と信じていたのであると思う。従って宿命論を唯一の合理的な考え方として、受入れやすかったのである。ところが生物のある種類の全体に対して、進化という、

D

的とも見える現象が起る。そこには何か私の単純な考え方では解決できないものがあることを、子供なりに感じ取ったのであろう。

私はこの時まだ、二十世紀初頭に物理学の大革命があったことを知らなかった。私が子供心に唯一の合理的な考え方だと思っていたところのものが、実は十九世紀末までの科学者が絶対に正しいと信じてきた考え方にほかならないことさえ、はっきり認識していなかった。まして量子論とか相対性原理とかいう、十九世紀までのいわゆる「古典物理学」の根底をゆるがす新しい学説が、二十世紀初頭に現われていたことなど、もちろん知らなかった。

しかし、ダーウィンの進化論を理解しようと思って苦しんだという事実は、私の精神の成長過程の中で、重要な意味を持っているように思われる。私の潜在意識は、このころからそれまでとは違った方向へ向って、活発な反応を示し始めていたらしいのである。②

少年期の感傷から、青年期のロマンチックな心情へと変貌し始めていたらしい。後になって考えて見ると、当時の私が、人生の空しさを知りつくした人の知恵を代表する老子よりも、雄大な空想に自分で酔っているような莊子の方にひかれたのも、故あることであつたろう。私の身体にも青春の血が流れ始めていたのである。一日も早く一中を去って、お隣の三高に入りたいという気持ちが強くなりつつあった。

アインシュタイン博士が日本を訪れたのは、それから間もなくであった。私の中学四年生の二学期も、終りに近いころであった。

雑誌「近衛」に童話を書き、幾何学の魅力につかれ、⑥進化論の理解に苦しみ、そして老莊の書に人生を思う。——そんな、一見不統一な少年期の心情というものは、今から思うとむしろ微笑ましい。いわばリーダーを備えた船が、濃霧の中に目標物を探しているようなものだ。

少年のリーダーは、ある日、ついに何ものかを探り当てた。遠く、はるか彼方に。けれども余り遠い存在だったから、最初のうちは、それが自分にとってどんな意義を持つものかを感知することは出来なかった。むしろ、再びそれが遠ざかって行ってから、私はその存在を新しく確認したのであった。

「アインシュタイン博士、訪日」

という記事が、新聞紙面に現われたのは、大正十一年の夏の終り——私の中学四年生のなかごろだったろうか。

アインシュタイン博士の相対性理論は——そのころは、相対律論とも呼ばれていた——理解出来ないままに、日本の民衆の口の端にも上っていた。石原純博士などは、早くからこの理論に傾倒していた。日本訪問がきまると、新聞にも雑誌にも、アインシュタインの名が氾濫した。^③

アインシュタイン博士を招いたのは、改造社だった。この雑誌社は数年前に出版界から消えてしまったが、中央公論社と共に日本の知識層を二分していた雑誌の発行元だ。当時はおそらく社運も隆々としていたのだろう。改造社すでになく、アインシュタイン博士もすでに物故された。――

新しく調べて見ると、博士は大正十一年十一月十七日、北野丸で神戸に到着。それよりも半月も前であったろうか、博士はノーベル賞を授与されたばかりだったのである。神戸港には、長岡半太郎、桑木或雄、石原純など、学界の大先輩たちが出迎える。午後上陸、そのまま京都に向い、京都ホテルに一泊。

その数日前に雑誌「改造」十二月号は、この来朝を記念して、ぼう大な「アインシュタイン号」を出している。博士の論文をトップに、前に記した諸学者のほか、寺田寅彦、小倉金之助など十五氏が、それぞれ博士について、あるいは博士の学問について語っている。いや、――執筆者の中にもう一人、私の逃すことの出来ない学者の名がある。京大教授玉城喜十郎先生だ。私が京大に入って、理論物理学をやることになってから、ずっとお世話になった先生である。もっとも中学四年生だった私は、まだ玉城先生の名は知らなかった。アインシュタイン博士は、京都ホテルに一泊して、すぐに上京した。神戸まで出迎えた日本の学者たちも、もちろん同じ列車で東上。それ以降は連日のように、博士の記事と写真とが、新聞紙上をにぎわしている。

慶應義塾での最初の講演は、休憩をはさんで五時間に及んだという。聴講者は一千名ぐらいがいいという博士の希望も、熱心な聴衆をこばみきれず倍以上に達したらしい。日本には理論物理学を専門にする学者はほとんどいなかった当時、一体、なにがこんなに多くの人々をひきつけたのであろうか。

私はまだ物理学に十分大きな興味を持っていなかった。数学の勉強に、より熱心であった。

そのころはまだ、物理学者の著書が専門以外の人々にも読まれるということは非常にまれであった。その代り哲学方面の書物が、盛んに出版はじめていた。岩波書店の哲学叢書が、もう何冊も出ていた。西田幾太郎博士の「善の研究」はずっと前から、多くの若い人々を感激させていた。哲学者の田辺元博士の「最近の自然科学」が哲学叢書の一冊として出たのは、このころであつたろうか。この中に「量子論」という言葉が度々出てきた。私には何のことだかさっぱりわからなかった。しかしそこに、何か神秘的な魅力を感じはじめていた。そして量子論の創始者、マックス・プランクにほのかな尊敬の念を抱きはじめていた。

物理学者は当時は、ジャーナリズムとは、ほとんど無縁な存在であつた。しかし石原純博士は例外であつた。理論物理学の新しい動向について、盛んに雑誌や新聞に書いておられたようである。「相対性原理」という大きな書物も出ていた。私にはそれはまだ

E

であつたが、アルバート・アインシュタインの名は、いつしか私の耳にも入っていた。

私の潜在意識は、理論物理学の方へ向つて、徐々に活動を開始しつつあつたのかも知れない。そのせいか、四年生になってからは、物理実験に熱心になっていた。

二人が一組になって物理実験をやつた。私の相棒は工藤信一良君であつた。湿度の測定の実験をやつていた時のことである。

エーテルを急に膨張^④させると蒸発して温度が下る。容器の金属の表面に露ができる。この時の温度と室内の温度をくらべると、空気の湿度がわかる。そういう仕掛である。私はこの実験にうまく成功した。非常に愉快であつた。

その時、工藤君が突然、

「湯川君はアインシュタインのようになるだろう」

と言つた。

その瞬間私は何のことかわからなかつた。私はまだ自分が理論物理学者になるだろうとは、全然思っていなかつたのである。物理実験の時間が終つてから、工藤君の言葉を思い出した。私は何となくうれしくなつてきた。私はまだ自分が何であるかを知らない、混沌^⑤たる存在であつた。莊子に出てくる、目鼻のつかない混沌であつた。

私の年級には、もっとはつきりと目に立つ生徒が何人もいた。谷口知平君は、ほとんどいつも、首席で通した折紙つきの秀才であつた。市村文雄君は野球の選手をしながら、頑張つて首席になつたこともある。井手成三君も三年ころから頭角をあらわして来た。湯浅佑一君も秀才であると同時に、ランニングや野球の選手でもあつた。私は数学がよく出来るという以外、まだ何ものでもなかつた。

アインシュタイン博士は、私からは余りにもかけはなれた偉大な存在であつた。工藤君の言葉は、現実とは何の関係もないように思

われた。それにもかかわらず、工藤君の一言は私の舟を取りまいて氷に、目に見えぬひびを入らせたようであった。フランスの詩人、シュリ・プリュドムの有名な詩に、

花びんが扇で軽く打たれた^①

それは目に見える傷を生じなかった

時がたつにつれて、ひびわれは成長していった。

ある日、花びんはひとりでに砕けた

というのがある。いまこの文章を書きながら、私はふとこの詩を思い出した。

『旅人 ある物理学者の回想』 湯川秀樹 角川文庫（二〇二二） 一三五頁～一四四頁 一部改変

問一 傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を使うものを次の中から選べ。解答番号は(15)～(19)。

①

ツウカイ
(a) 社会カイソウ
(c) カイソウロク

(b) カイテキな湿度
(d) リカイ不能

②

キカン
(a) キカイに恵まれる
(c) キブンを害する

(b) リサイクルヨウキ
(d) キチヨウな資料

③

ネットウ
(a) トウカクをあらわす
(c) トウシン大の自分

(b) メンバーをトウソツする
(d) トウジョウ人物

④

サイ
(a) イワ感を覚える
(c) イシを貫く

(b) イジンの業績
(d) イブンカ交流

⑤

スイリョウ
(a) ジュンスイな気持
(c) 危険スイイ

(b) 文章をスイコウする
(d) 業務をスイコウする

問二 空欄

A

E

 に最もあてはまる語を、各選択肢の中から一つ選べ。解答番号は(20)～(24)。

A

(a) 消耗

(b) 分化

(c) 発達

(d) 統合

B

(a) 価格

(b) 略奪

(c) 自由

(d) 生存

C

(a) 偶然的

(b) 相対的

(c) 因果的

(d) 先天的

D

(a) 短絡

(b) 合目的

(c) 運命論

(d) 実用

E

(a) 立て板に水

(b) どんぐりの背比べ

(c) 猫に小判

(d) ぬかに釘

問三 二重線部①～⑤の読みとして正しいものを次の中から選べ。解答番号は(25)～(29)。

① 淘汰

(a) ざた

(b) とうた

(c) とうさ

(d) かんさ

② 感傷

- (a) かんとう (b) かんどう (c) かんしょう (d) かんき

③ 氾濫

- (a) はんかん (b) かくらん (c) こんらん (d) はんらん

④ 膨張

- (a) こちょう (b) ぼうちょう (c) かくちょう (d) しょうちょう

⑤ 混沌

- (a) こんじゅん (b) こんとん (c) こんすい (d) ひじゅん

問四

空白

ア

には皆同じ二字の熟語が入っている。空白

ア

にあてはまる二字の熟語を答えよ。解答番号は(30)。

問五

波線部㉔について、著者が進化論の理解に苦しんだ理由について、最もあてはまるものを次の中から選べ。解答番号は(31)。

- (a) 相対性理論とは異なり、前近代的な理論であるため
(b) ラマルクの用不用説に比べて複雑すぎるため
(c) 自分は自然界における唯一無二の合理的な考え方の存在を信じていなかったため
(d) 先生にどう説明されたとしても、当時中学生であった著者は乏しい知識しか持っていなかったため。

問六

波線部㉕について、著者はこの詩を思い出すことにより、具体的に何を思い出したのか。二〇〇字以上、二五〇字以内で説明せよ。解答番号は(32)。